

# 道標ない旅

## 自分も人も大切に

～思いやり  
・チャレンジ  
・しなやかな心～



令和2年度 第37号  
2021.3.16発行  
葉山町立長柄小学校  
校長 益田孝彦  
Tel. 046-875-6860  
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 校長集会サイエンスショー第4弾（卒業記念編）を実施しました。楽しんでくれたようです。 ◆◆



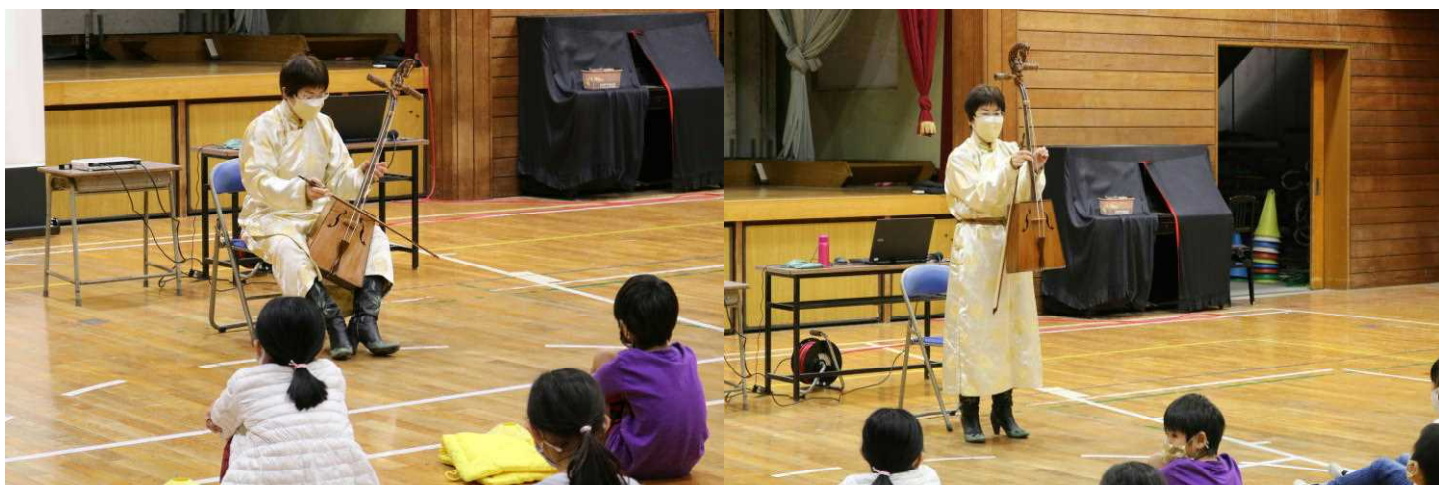
水風船をチャッカマンであぶる実験をしました。  
この実験は、加熱器具をチャッカマンからガスバーナーなどに替えてしまうと、結果が変わってきます。割れないためには、中の水が沸騰しないことが条件になります。  
まずなぜ割れないかを説明すると、風船は中の水に冷やされ、決して燃える温度にまでは温度上昇しないからです。特にチャッカマン程度の火力では、沸騰させる前に燃料切れになってしまいます。泡ができないことが大切です。  
ところがガスが無限にあるガスバーナーを使うと、やがて水が沸騰してきてしまいます。泡ができると、そのせいで、水が風船に届かず、冷やせないため風船がとけて割れてしまいます。



児童の皆さんには料亭などで出される紙鍋のお話もしました。紙の着火温度は 200℃以上です。炎の上に紙を置くにもかかわらず紙鍋が燃えないのは、水が紙の中に入っていれば、紙を同様に冷やしてくれまますし、紙の温度が水の沸点である 100℃を超えることがないからです。燃えないの？なんて料亭で聞かないように覚えておきましょう。  
後半は剣山に水風船を落下させました。放送では、そばにいる先生方に、割れてしまったような演技を声でお願いしました。みなさんにはどうきこえましたか？  
針が少なければ、風船はジャガイモ同様、針が刺さりすぐに割れてしまいます。でも針がたくさんに増えると、力が分散して、力のききめが弱まり、割れないのです。たまに割れてしまうことも実はあります。でも、理由を知っていればとても理科の力がついたことになります。

【リクエストに応えての教室での実演風景】

◆◆ 2月22日には、モンゴル講座を実施しました。 ◆◆



あいにく私自身は当日欠席してみられなかったのですが、一色小校長時代から、奏者である さんのご講演の素晴らしさには心を打たれています。

実際に、 さんからモンゴル語での挨拶を教わったり、モンゴルでの暮らしの様子を教えていただいたり、馬頭琴の音色を満喫させていただいたりしました。2年生が「スーホの白い馬」を学習する上で、探究心が深まり、とてもよい刺激になったのは間違いありません。宮原さんありがとうございました。

◆◆ 3月11日には、3年生音楽教室「ハープとヴァイオリン」を実施しました。 ◆◆



3年生が音楽の授業の一環で、ハープとヴァイオリンの生音に触れる大変貴重な体験ができました。

ハープ奏者：さんと、ヴァイオリン奏者：

さんのご協力で実現できたこの音楽教室、児童の心にも深い印象が刻まれたようです。

指ではじく楽器なので、練習で血豆ができたお話や、ヴァイオリンにも、ピチカートという奏法で、弦をはじいて音を出す技があることなど興味を持って話を聞いていました。

演奏曲は、「星に願いを」「白鳥」「チャールダーシュ」そして、「竈門炭治郎のうた」の4曲。ハープとヴァイオリンの織りなす音楽に、素敵な経験をしたなど感じました。さん、さん、子どもたちのために素敵なひとときありがとうございました。

◆◆ 「さよならの会」も、6年生の心に届くよい会となりました。 ◆◆



写真左は5年生が披露した、息ぴったりのボディパーカッションの様子。6年生の後を継ぐ心意気と覚悟は、きっと6年生に伝わったと思います。その後、各学年の工夫を凝らしたパフォーマンスが続き、締めは6年生に面倒を見てもらってきた1年生。ダンスを披露した後は、お世話になった6年生に、一人一人がかぶっていた冠をプレゼントして退場していきました。すべてを見させていただき、長柄小学校のよさを楽しみ感じました。いろいろな我慢した6年生でしたが、胸を張って中学に進学してほしいなと心より思いました。

◇◇ GIGA スクール構想 長柄小学校編パート3 ◇◇

道標ない旅第36号では、ドキッとさせてしまい申し訳ありませんでした。運用基準を読んで早とちりしてしまったことを、葉山町教育委員会にも、保護者の皆様にもお詫び申し上げたいと思います。

いろいろ調べる中で、各ご家庭で入りやすい、個人賠償責任保険については、学校管理下の授業中での物損に対する補償はほぼないことが分かってきました。そんな中、偶発的な故意では無い事故に対し、保護者負担を求めては、使う意欲に繋がらないことから、葉山町は、その場合は保護者負担とはしない方針を持っていました。ありがたいことです。今回は、「有償修理」という表現が、すべて保護者負担と捉えた私の考え違いだったので、昨日メールでも修正する旨発信いたしました。

ところで、保険会社等に数社問い合わせる内に分かったことがあります。

「クロームブックやiPad等の一人一台貸与」は、このコロナ禍にあつて、日本では突然のように前に進んだ事柄です。他国では、教育のICTの有効活用は、すでに行われていることですが、先進国と言われてきた日本ではほとんど進まず、世界に大きく後れをとっていたのが去年までの実情でした。しかし、職場でもリモート化が進み、オンライン会議などがやっとなら行われるようになり、教育においても「一人一台貸与」の時代が、この一年で急に進んだのです。あまりにも急なことなので、この4月から「一人一台貸与」が始まるのに、保険会社さんは各社、そこに新しい保険のビジネスチャンスがあることに気づかずにいたようです。現在急に問い合わせが来るようになり、「一人一台貸与のPC機器」について、「動産総合保険」で対応する場合、保険料をいくらか設定すべきか急遽検討が行われているようです。つまりまだ「貸与PC」に対する保険はこの世の中に存在しないのです。(余談ですが、動産総合保険は、団体として入るものなので、葉山町あるいは学校単位等で、検討が必要な時期が来るであろうと予想しています。)